

様式第2号（政務活動実施報告書）

平成30年4月4日

井原市議会議長

西田久志様

井原市議会議員 惣台 己吉

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実施期間	平成30年3月30日（金）10:00～16:30 平成30年3月31日（土）10:00～16:20
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	福岡県福岡市博多区博多駅東1丁目16-14 リファレンス駅東ビル
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	1) 議会改革注意点と議会・議員の未来・ 率直に語る地方議員に関わるお金の考え方 2) 質問方法スキルアップ研修（初級・応用）
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	元枚方市議会議員 講師：高橋 伸介 氏
5. 活動内容	別紙①のとおり

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。

2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

1) 地方自治法にみる議会・議員の変遷とこれから必要とされる仕事

- ・活動拠点として直接選挙による4年間の仕事と議会内、行政内における環境醸成の必要性
- ・明治時代からみる議会数（自治体数）と議員数の変遷
- ・平成における地方自治法の改正点と議員活動の変化
- ・日本国憲法と地方自治法における議員活動の役割
- ・昨今の地方議会、議員批判の源流
- ・新たな議会改革と議会基本条例
- ・標準会議の規則をどのようにカスタマイズするか。ではなく議会改革を進めると  
会議規則は変わっていく
- ・地方制度調査会より今後の地方議会・地方議員を読み解く、集約化と多様化への流れ
- ・第28次地方制度調査会の内容を読み解く
- ・政策立案の流れから今後の議会質問の姿を読み解く
- ・議会改革ランキングアップの技術

〈所感〉

○議会改革を求める流れ

- ・ 議員同士が責任をもって自由に討議する議会
- ・ 市民も参加できる開かれた議会
- ・ 積極的に情報を公開し透明性のある議会
- ・ 一問一答でわかりやすい議論をする議会
- ・ 市民にわかりやすい議会
- ・ 行政となれ合わない議会
- ・ 市民と政策をつくる議会
- ・ 行政から独立した事務局をもつ議会
- ・ 実効性のあるチェック機能をもつ議会
- ・ 自ら運営できる議会

以上、議会基本条例に基づいて運用する

以上

2) 率直に語る地方議員に関わるお金の考え方

- ・ 政務活動費が絡む事件を分析してみる
- ・ 2014年6月に発覚した兵庫県議野々村氏の事件を掘り下げて考える
- ・ 政務活動費を先払いから後払いへ、同時にネットでの公開を進める
- ・ 基準は裁判結果で変わらざるを得ないときがある
- ・ 議員報酬については特別職非常勤の性格から自治法203条の変遷を深読みする
- ・ 議員活動、議会活動、政治活動の言葉の定義を熟考し違いを説明できるようにする
- ・ 類似団体横並びから独自の基準作りへ
- ・ 議員定数については「会議」に必要な人員から定数を検討する
- ・ 議員年金については厚生年金案を元に議員の活動実態を検証する
- ・ 集約化・多様化の流れとして町村議員の兼業制限緩和の流れも

〈所感〉

- ・ 政務活動費の主たる使い方は政策提言・政策立案能力の向上を図るための調査研究費
- ・ 収支報告書はオープンに
- ・ 「判例」には上級審も視野に入れ即対応
- ・ 政務活動費収支報告書は領収書もネット公開
- ・ 流れは定額支給から実費計算・事後精算へ

井原市議会が行っている政務活動費収支報告は基本条例に基づいて今後も行っていく

以上

3) 質問方法スキルアップ研修 (初級・応用)

- ・ 標準議会会議規則と当該議会会議規則を理解する
- ・ 議会基本条例で変わるところ
- ・ 議会質問における一般質問と議会質問の違いを徹底的に理解する
- ・ 運用上、常任委員会質疑ではレンジを広く運用している議会が大半
- ・ 質問に先立ちヒアリングの重要性
- ・ 可能な部分は執行部と調整を図る
- ・ 執行部から一般質問に求められるものを考える
- ・ 調査なくして発言権なしと考える
- ・ あらゆる「やり方」 (質問作成) にも通用するPDCAサイクル

〈所感〉

・ 一般質問では「市政全般に対して市の見解を求め、質問をただすもの」、「知っていることを聞き、知らないことは聞かない」＝自身の事前勉強と十二分なヒアリングが必要、そして政策提案も出来る

・ 質疑では「議案に対する疑問点をただす」、「議題外にわたり、またはその範囲を超えてはならない」

・ 議会の監視評価機能と政策立案機能を発揮する方向（質問）で進みそのプロセスには「見える化」が求められる

・ 井原放送でのライブ中継によりヒアリングを行い、市民にわかりやすい質問をする

以上

